

# 人工膝関節手術 ロボット支援

奈良・西の京病院

骨切る量や角度精密に

奈良市の西の京病院人工関節センターは、高精度の安定した手術を行うため、人工膝関節手術支援ロボットの導入した。同病院によ

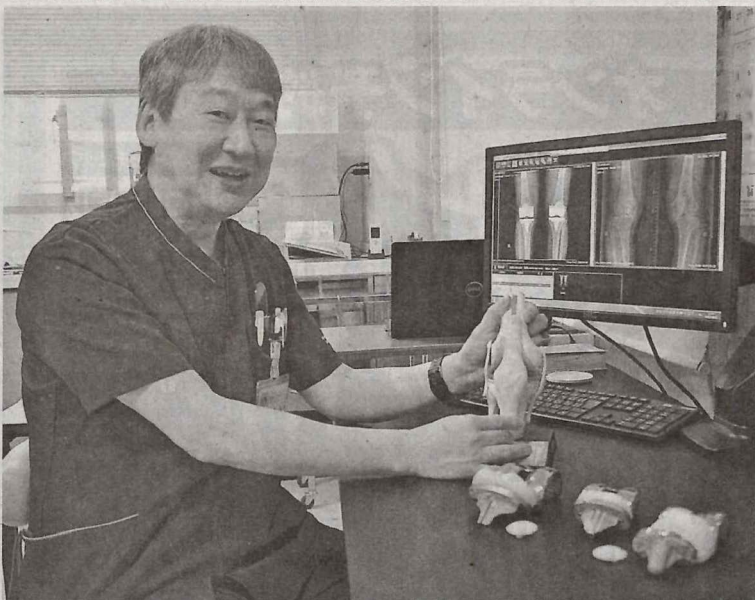
ると、奈良市内では初の運用という。昨年未から導入し、膝に痛みが続く変形性膝関節症の患者らの手術で活躍している。

ロボットは、変形性膝関節症や関節リウマチなどで変形した膝関節の表面を取り除き、金属やセラミックなどでできた人工関節を骨にかぶせる手術「人工膝関節置換術」のサポートを行う。骨を切る量や角度などは精密さが要求され、これまでは医師の経験と感覚に頼る部分が大きかった。

ロボットの導入によって、体への負担が少ない術前計画を立て、0・5ミリ単位、0・5度単位の正確な手術や、患者一人ひとりの状態に合わせた手術が可能となる。術中の出血量を抑えたり、術後の痛みを少なくしたりすることにもつながり、入院期間の短縮というメリットがある。

導入とメンテナンスには数千万円規模の費用がかかるが、同センター長の斉藤昌彦医師(58)は「最新の技術を使って患者さんの利益になることが最優先だった」と強調する。利用者からは「新しいロボットで手術ができてよかった」などの反響があるという。

高齢化に伴い、人工膝関節置換術の症例数は増加傾向にあり、同センターでも1か月に20件前後対応している。斉藤センター長は「毎日続くつらい痛みがなくなることは、とても喜ばれることだと実感した。大いに活用していきたい」とする。



ロボットの有効性を解説する斉藤センター長（いずれも奈良市で）



新たに導入された人工膝関節手術支援ロボット「ROSA」